

# 乳がんは 女性がもっともかかりやすい がんです

がん 罹患数（かかる数）が多い部位（女性・2018年）

順位	1位	2位	3位	4位	5位
部位	<b>乳房</b>	大腸	肺	胃	子宮
一生でがんになる割合	9人に1人	13人に1人	20人に1人	21人に1人	30人に1人

国立がん研究センター がん情報サービス より

乳がん検診は高価な検診ですが、市町村から助成を受けることができますので、割安な料金で受診することができます。

対象年齢	検査方法	通常料金
39歳以下	超音波検査	約 6,300 円
40～64歳	マンモグラフィ（2方向撮影）	約 8,500 円
65歳以上	マンモグラフィ（1方向撮影）	約 5,000 円

市町村からの助成により、通常料金の半額以下で受診することができます。 ※個人負担金は市町村からのお知らせをご覧ください。

ぜひ乳がん検診を受けてください

裏面の『大切なお知らせ』をよくお読みください

# 乳がん検診を申し込まれた方への『大切なお知らせ』

下記に該当される方は、集団検診を受けることができません。  
乳がん検診を受診される前に、該当する年齢の項目を必ずご確認ください。

## 39歳以下の方（超音波検査対象者）

- 妊娠中の方
- 授乳中\*の方及び断乳後1ヶ月未満の方
- 豊胸術\*\*を受けたことがある方
- 乳腺のことで治療中または経過観察を受けている方

## 40歳以上の方（マンモグラフィ検査対象者）

- 妊娠中・妊娠の可能性のある方
- 授乳中\*の方及び断乳後1ヶ月未満の方
- 豊胸術\*\*を受けたことがある方
- 乳腺のことで治療中または経過観察を受けている方
- 心臓ペースメーカー、前胸部に人工血管や薬液注入器具（CVポート）を埋め込んでいる方
- 脳室・腹腔連絡術（V-P シャントカテーテル留置術）を受けている方

\*夜間授乳も含む    \*\*シリコン注入・シリコンバッグ・生食バッグ・ヒアルロン酸注入等

妊娠中や授乳中の方は、乳腺が発達していて検査や診断が困難です。また、マンモグラフィの場合、体内に埋め込まれたペースメーカー等はマンモグラフィ撮影の際に破損する危険性がありますので、今回の乳がん検診を受けることが出来ません。上記の項目に該当される方は、専門科（乳腺外科等）にご相談ください。

## 40歳代から乳がんにかかる人が急増！

30歳から64歳の日本人女性のがん死亡原因の1位は乳がんです。乳がんで亡くなる人は、ここ50年間で7倍近くに増えています。

## 検診は、無症状の方から早期がんを発見することが目的！

乳がん検診の方法として死亡率減少効果が証明されているのは、40歳以上の女性を対象とする方の2年に1回のマンモグラフィ検診です（厚労省「がん検診のあり方に関する検討会」の中間報告）。乳がんは、小さいうちに見つけると治る可能性の高いがんです。早期発見のために、ぜひ乳がん検診を定期的に受けましょう。

## 検診結果

検診結果はがん検診センターにおいて複数の医師で診断し、後日通知いたします。精密検査が必要になった場合には、専門の医療機関をご紹介します。精密検査の内容は検査結果により異なりますが、マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、穿刺吸引細胞診、針生検等を行います。 ※精密検査は必ず受診してください。

## 自覚症状がある場合は検診ではなく、病院受診を！

検診ですべての乳がんを指摘できるわけではありません。また、自覚症状のある方が検診の結果を待ってからでは受診のタイミングが遅くなります。日頃から乳房の状態に関心を持ち、自覚症状がある場合には速やかに乳腺専門の医療機関（乳腺外科等）を受診しましょう。

検診車に移動できない方やマンモグラフィ撮影等に必要な体位が保持できない場合は、検診が受けられないことがあります。ご不明な点やご相談がありましたら下記までご連絡ください。

○自覚症状がある方は、専門科（乳腺外科等）の診察をお受けください。